
令和2年度 事業報告書・概要版

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)



令和3年6月
地方独立行政法人 神戸市民病院機構

市民病院機構・各病院位置図



※令和3年1月1日現在の人口

※ 本文のグラフや表における「H」は平成、「R」は令和の元号を表します

神戸市民病院機構について

◆神戸市民病院機構の目的

- ✓ 地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究並びに技術者の研修等の業務を行うことにより、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的とする。

◆概要

項目	
法人名	地方独立行政法人 神戸市民病院機構
所在地	神戸市中央区港島南町2丁目2番地
設立年月日	平成21年4月1日
役員数	13名（令和2年4月1日時点）
職員数	3,494名（令和2年4月1日時点）

◆役員名簿

（令和3年3月31日時点）

役職		氏名	備考
理事長	常勤	橋本 信夫	
理事	常勤	木原 康樹	中央市民病院長
理事	常勤	有井 滋樹	西市民病院長
理事	常勤	竹内 康人	西神戸医療センター院長
理事	常勤	栗本 康夫	神戸アイセンター病院長
理事	常勤	久戸瀬 修次	法人本部長
理事	非常勤	湊 長博	京都大学総長
理事	非常勤	守殿 貞夫	西宮敬愛会病院長
理事	非常勤	村上 雅義	神戸医療産業都市推進機構専務理事
理事	非常勤	南 裕子	神戸市看護大学長
理事	非常勤	植村 武雄	小泉製麻株式会社会長・神戸商工会議所副会頭
監事	非常勤	藤原 正廣	弁護士（京町法律事務所）
監事	非常勤	岡村 修	公認会計士・税理士 （岡村修公認会計士税理士事務所）

神戸市立医療センター中央市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：768床

一般病床：750床（うち、ICU・CCU：22床/SCU：12床/HCU：28床）

感染症：10床

MPU：8床

- ✓ 救命救急センターとして24時間365日体制での救急医療を提供し、脳卒中や急性心筋梗塞、交通外傷等、生命に関わるような重篤な患者を中心に、幅広く患者を受入れる。
- ✓ 地域医療支援病院として地域医療連携の推進に取り組むとともに、高度医療機器の導入等を必要に応じて行い、神戸市全域の基幹病院として専門性の高い高度な医療の提供を行う。



地域医療
支援病院

救命救急センター
指定病院

病院機能評価
認定施設

災害拠点病院

地域がん診療
連携拠点病院

第一種感染症
指定医療機関

総合周産期母子
医療センター

◆基本理念

神戸市立医療センター中央市民病院は、神戸市の基幹病院として、市民の生命と健康を守るため、患者中心の質の高い医療を安全に提供する。

◆基本方針

- ①患者の生命の尊厳と人権を尊重する
- ②十分な説明に基づき、満足と信頼が得られる医療を安全に提供する
- ③基幹病院としての機能を果たすため、高度・先端医療に取り組む
- ④24時間体制での救急医療を実践する
- ⑤医療水準の向上を目指し、職員の研修・教育・研究の充実を図る
- ⑥地域の医療・保健・福祉機関との相互連携を進める

◆診療科（令和3年3月31日時点）

循環器内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、感染症科、精神・神経科、小児科、新生児科、皮膚科、外科・移植外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、救急部、総合内科

神戸市立医療センター西市民病院

◆病院の特徴と役割

病床数：358床

一般病床：358床（うち、HCU：7床）

- ✓ 市街地西部（兵庫区、長田区、須磨区）の中核病院として、高水準の標準的医療を提供するとともに、内科系・外科系の24時間365日の救急医療体制を継続し、地域住民が安心して暮らせる救急医療の提供を行う。
- ✓ 地域医療支援病院として、専門性の高い医療を提供するとともに、急性期中核病院として近隣の医療・介護機関と緊密な連携のもと、在宅医療を支援する。



地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

がん診療連携拠点
病院に準じる病院

認知症疾患医療
センター

◆基本理念

神戸市立医療センター西市民病院は、地域の中核病院として、市民の生命と健康を守るために、安全で質の高い心のこもった医療を提供します。

◆基本方針

- ①患者さんの人権を尊重し、患者中心のチーム医療を推進します。
- ②医療安全体制の充実を図り、患者さん及び職員の安全確保に努めます。
- ③救急医療の充実を図り、災害時の医療にも備えます。
- ④高度・専門医療を充実させ、市民病院として地域医療に貢献します。
- ⑤地域社会との連携を強化し、在宅医療を支援します。
- ⑥医療従事者の職務の研鑽を深め、医療水準の向上に努めます。
- ⑦職員の経営参画意識を高め、病院の健全な財政運営に努めます。

◆診療科（令和3年3月31日時点）

消化器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、総合内科、臨床腫瘍科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、脳神経外科、整形外科、血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、病理診断科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

神戸市立西神戸医療センター

◆病院の特徴と役割

病床数：475床

一般病床：425床（うち、ICU・CCU：10床）

結核病床：50床

- ✓ 神戸西地域（西区・垂水区・須磨区）に根づいた安心・安全な医療をめざすことを理念とし、神戸西地域の中核病院として、救急医療、高度専門医療、結核医療を安定的・持続的に提供する。
- ✓ 地域連携を促進し、地域完結型医療を目指す。

地域医療
支援病院

病院機能評価
認定施設

地域がん診療
連携拠点病院

結核指定
医療機関



◆基本理念

神戸西地域
に根づいた
安心・安全な
医療をめざし
ます

◆基本方針

- ① 急性期病院として、マンパワーや設備のさらなる強化に努め、救急医療や高度専門医療を充実させることで地域住民の期待に応えます
- ② 市民病院として、結核医療や災害時の医療に対応します
- ③ 地域の中核病院として、地域連携を促進し、地域完結型医療をめざします
- ④ 市民の生命と健康を守るため、市民病院間相互の協力連携を推進します
- ⑤ 患者さんを中心としたチーム医療を行うとともに、患者さんや家族に対して誠実な態度で接します
- ⑥ 患者さんが納得できるわかりやすい説明を心がけ、患者さんや家族の自己決定権を尊重します
- ⑦ 職員が相互に協力し合い、常に改善を心がけ、医療水準・職場環境・経営体制すべてにおいてさらに誇れる病院を確立します

◆診療科（令和3年3月31日時点）

救急科、総合内科、脳神経内科、腎臓内科、内分泌・糖尿内科、免疫血液内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科、精神・神経科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科

神戸市立神戸アイセンター病院

◆病院の特徴と役割

病床数：30床

一般病床：30床（眼科）

- ✓ 眼科領域の再生医療分野を中心に、様々な分野での最新の医学研究成果等を取り入れた新しい治療を世界に先駆けて享受できる最先端の高度な眼科病院として、標準医療から最先端の高度医療まで高水準の医療を安定的に提供する。
- ✓ 眼疾患に係る臨床研究及び治験推進の臨床基盤としての役割を果たす。

国家戦略特区指定



◆基本理念

神戸市立神戸アイセンター病院は、市民のそして当院を受診する全ての患者さんの眼の健康を守るため、眼科中核病院として標準医療から高度先進医療まで提供するとともに、眼に関するワンストップセンターの核として患者さんの思いを繋げる役割を果たします。

◆基本方針

- ① 安全で質の高い医療を提供し、失明の防止とQOV（見え方の質）の向上につなげます
- ② 世界最先端の高度医療を取り入れ、地域社会・医療機関につなげます
- ③ 医療を通じて、医学研究から生活支援までつなげます
- ④ 患者さんの思いを理解し、希望につなげます
- ⑤ 職種間の一体感を持ち、人が育ち働きがいある職場づくりにつなげます
- ⑥ 職員一人ひとりが経営感覚をもち、健全な病院運営につなげます
- ⑦ そして、未来につなげます



決算概要

◆◆法人全体◆◆

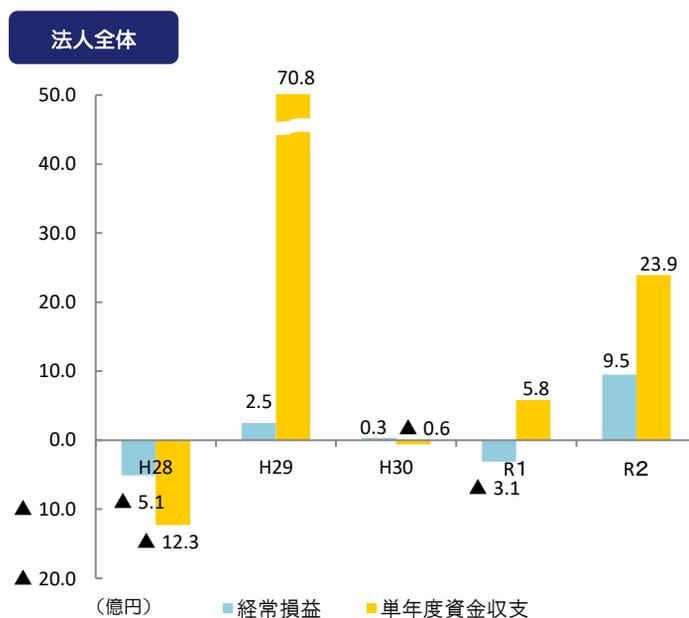
令和2年度は新型コロナウイルス感染症という未知の脅威に対して、市民病院機構の全職員が一丸となって対応し、神戸市の同感染症対応の中核的な役割を担いました。

しかし、同感染症患者受入れのための空床確保や看護体制確保のための一部病棟閉鎖、手術の延期などが大幅な患者数の減少につながり、前年度比で約70億円の医業収益の減となりました。一方で、国・神戸市が空床確保に対する補償や医療物資の購入に対して手厚い補助制度を創設したことで前年度比で約80億円増となる補助収入等を確保することができました。

また、同感染症の拡大をきっかけに生じた受診控えや今後の人口減少社会など、病院を取り巻く厳しい環境においても市民の命と健康を守る役割を果たしていくために、経営基盤の強化を推進し、新たな加算や上位基準の取得等の増収や医薬品・材料等の調達費用をはじめとする経費削減などの経営改善に取り組みました。

これらの結果、令和2年度は機構全体で9.5億円の経常黒字、当期純損益は9億円の黒字、単年度資金収支は純損益の改善により24億円の黒字となりました。

グラフ1：経常損益・単年度資金収支の推移（法人全体）



※H29の資金収支には、神戸市都市整備等基金からの50.5億円の受入を含む。

◆◆病院別◆◆

① 中央市民病院

新型コロナウイルス感染症の重症患者の受入に伴い、手術や入院が大幅に制限される中、臨時病棟にコロナ患者を集約するなど、効率的な病床運営と感染対策に努めましたが、患者数は大幅減（対前年度比 入院：▲25%、外来：▲20%）、医業収益も大幅に減少しました。一方で、同感染症対応に伴い生じた多数の空床・休床に対して、十分な補助収入が確保できたことにより経常黒字となりました。

② 西市民病院

新型コロナウイルス感染症患者の受入に伴い患者数は大幅減（対前年度比 入院：▲18%、外来：▲14%）、医業収益も大幅に減少しました。一方で、上位加算の取得や医薬品費削減など経営改善に積極的に取り組んだこと、同感染症に関する補助収入を確保できたことにより経常黒字となりました。

③ 西神戸医療センター

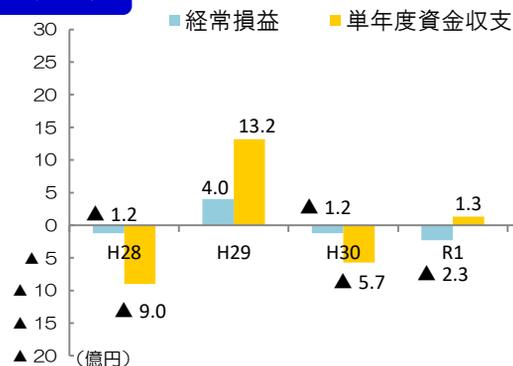
新型コロナウイルス感染症患者を受け入れながらも可能な限り通常医療の提供を継続しましたが、患者数は大幅減（対前年度比 入院：▲13%、外来：▲10%）、医業収益も大幅に減少しました。一方で、リニアックの活用など収益増に取り組んだこと、同感染症に関する補助収入が確保できたことにより経常黒字となりました。

④ 神戸アイセンター病院

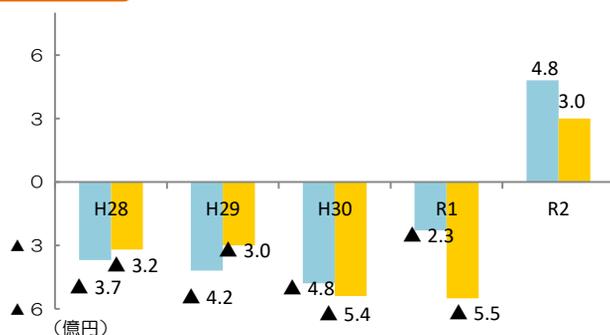
新型コロナウイルス感染症の影響によって、患者数は大幅減（対前年度比 入院：▲11%、外来：▲8%）となりましたが、新規加算の取得や硝子体注射の増加等による増収と材料費の削減等に取り組んだことに加え、その他医業収益（臨床研究）の増もあり、経常黒字を確保しました。

グラフ2：経常損益・単年度資金収支の推移（病院別）

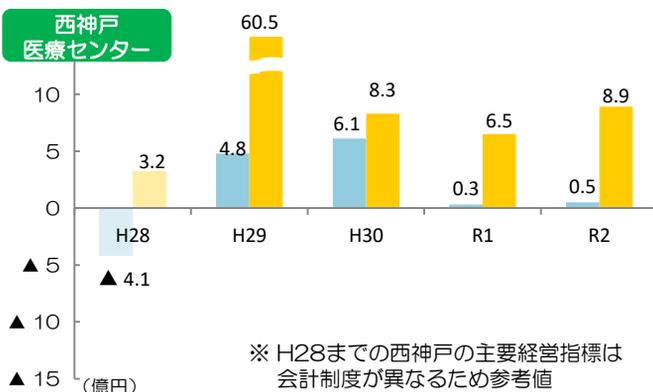
中央市民病院



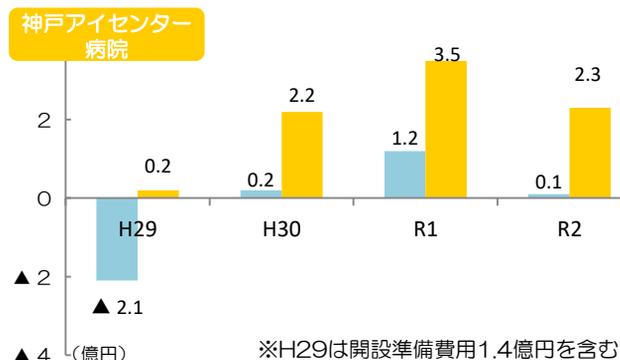
西市民病院



西神戸医療センター



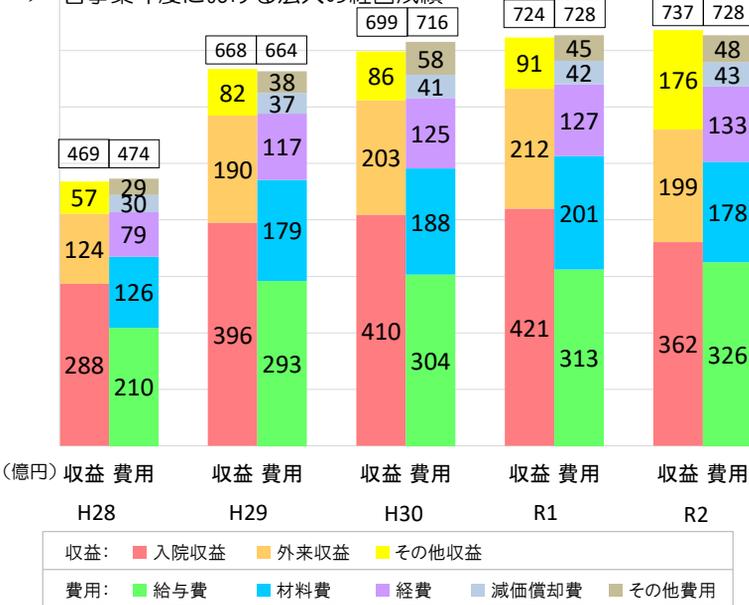
神戸アイセンター病院



◆◆財務諸表の概要◆◆

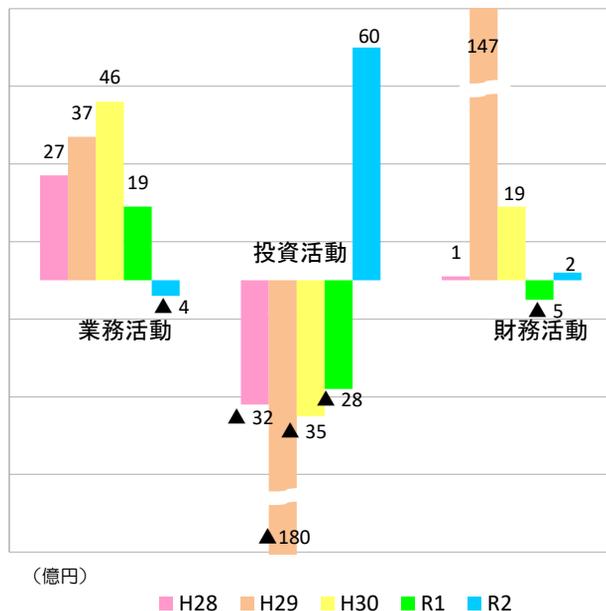
グラフ3：損益計算書

各事業年度における法人の経営成績



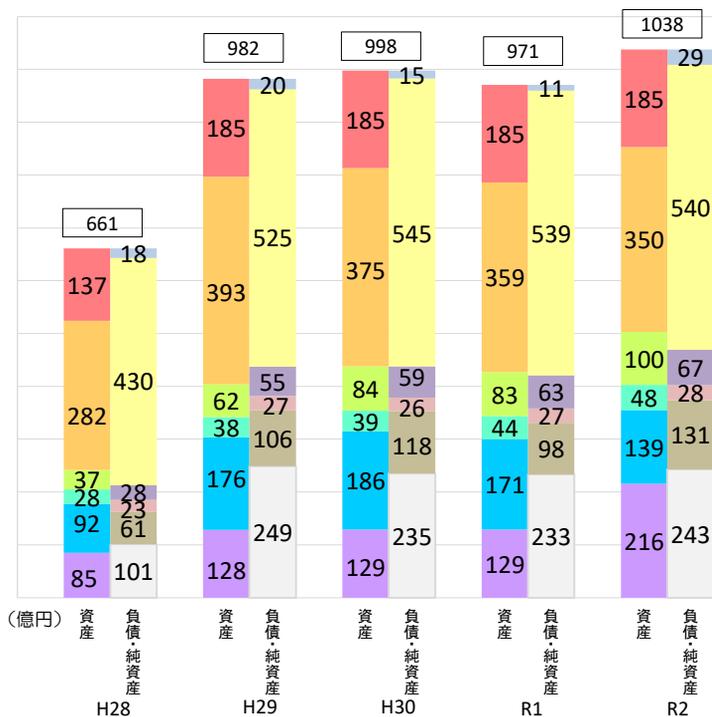
グラフ4：キャッシュ・フロー計算書

各事業年度の現金及び預金の増減を活動区分別に表示



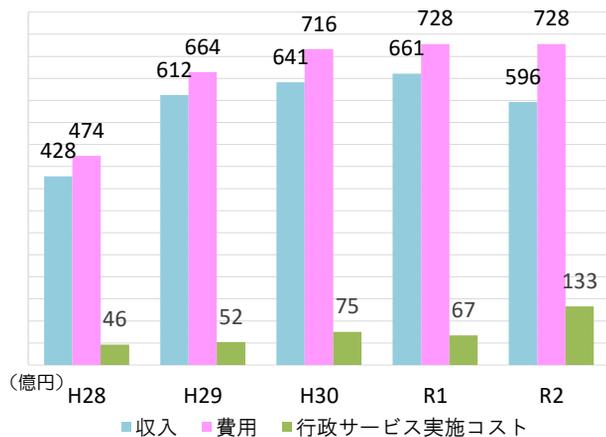
グラフ5：貸借対照表

各事業年度における法人の財政状態



グラフ6：行政サービス実施コスト計算書

納税者が実質的に負担しているコスト



令和2年度末の現金及び預金残高は139億円となっています。

令和2年度末の行政サービス実施コストは133億円となりました。

資産：土地	建物等	工具器具備品 ソフトウェア等	その他 固定資産	現金	その他 流動資産
負債：資産見返 負債	借入金	その他 固定負債	借入金 (1年以内返済)	その他 流動負債	
純資産：純資産					

新型コロナウイルス感染症への対応

1. 概要

令和2年3月3日に神戸市内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、令和3年6月1日時点での市内の延べ患者数は14,942名となりました。市民病院機構では神戸市からの病床確保の依頼・要請に基づき、外来では帰国者・接触者外来を設置するとともに、入院については重症・中等症を中心に新型コロナウイルス感染症患者の受入に対応しています。



写真1 新型コロナウイルス感染症対策本部
(中央市民病院)



写真2 救急搬送（中央市民病院）



写真3 重症患者への対応（中央市民病院）



写真4 帰国者・接触者外来（西市民病院）

2. 診療体制について

中央市民病院は市内で唯一の重症患者に対応する特定病院※として兵庫県の指定を受け、重症・中等症患者を中心に医療を提供しています。11月9日には全国で初めてすべての病床で重症患者の受け入れが可能な臨時病棟（36床）の運用を開始しました。軽症・中等症患者の受入を行う西市民病院、西神戸医療センターにおいては新型コロナウイルス感染症の専用病棟を設置し、対応にあたりました。アイセンター病院では新型コロナウイルス感染症の患者で眼科緊急手術等が必要な場合への対応として、PCR検査体制や陰圧化が可能な個室・手術室の確保等を行いました。

臨時病棟・専用病棟の運営のため、通常診療の制限を行い病院内の人員配置を見直すなどの工夫を行いました。また、重症患者に対応する中央市民病院の応援のため、西市民病院・西神戸医療センターから看護師を派遣するなど、市民病院間での相互協力のもと、症状に応じた受入体制を構築しました。

懸命の対応を行う中で、中央市民病院は4月9日、西市民病院は11月23日にそれぞれ院内感染が発生し、一時的に救急受入を停止するなど診療制限を実施しました。いずれの病院も対策の見直しとゾーニング※の徹底を図り、中央市民病院では8月7日に院内感染に関する報告書を発表しました。



写真5 臨時病棟（中央市民病院）

臨時病棟の主な設備

- ・全室で陰圧、人工呼吸器が対応可能
- ・人工心肺装置（ECMO）1台 など



写真6 専用病棟（左）、陰圧ブース（右）
(西市民病院)



写真7 専用病棟（左）、救急病棟（右）
(西神戸医療センター)

<新型コロナウイルス感染症重症等特定病院>

- 兵庫県の定める新型コロナウイルス感染症に係る兵庫県対処方針のなかで規定される医療機関。重症者対策を推進することとされ、兵庫県内では神戸市立医療センター中央市民病院のほかに県立尼崎総合医療センターが指定されている。

<ゾーニング>

- 感染症患者の入院病棟等において、病原体によって汚染されている区域（汚染区域）と汚染されていない区域（清潔区域）を区別すること。

治療を行う医療従事者は、休む間もなく対応を続けており、身体的・精神的負担が大きく、長期化によりモチベーション等の低下も懸念されることから、中央市民病院の新型コロナウイルス感染症対応をしている看護師を中心に、定期的なストレスチェックを行うなど心身のケアに十分注意を払うとともに、全職員を対象とした「メール相談」・「電話相談」を実施し、医療従事者の心身の健康確保に努めました。また、新型コロナウイルス感染症対応にかかる手当の引き上げやホテル等の宿泊施設の確保を行いました。

3. 医療機能の維持

各病院とも、感染拡大により増加する新型コロナウイルス感染症患者の受け入れへ対応するため通常医療における入院・手術等の大幅な制限を実施しましたが、電話診療※や術前PCRの実施などにより制限の範囲内で可能な限り医療の提供を行いました。

また、感染防止対策として新型コロナウイルスに感染した患者との接触を避けるためのゾーニングの徹底、来院者の検温、待合室の配置変更、PCR検査の実施、遠隔医療システム（遠隔ICU）の導入、WEB面会の実施などを行いました。

さらに、職員に対するワクチン接種を3月5日から順次実施し、5月10日の時点で全体の約88.4%にあたる職員が接種を終えました。

4. 地域との連携・情報発信

中央市民病院では11月29日に新型コロナウイルス感染症対応の経験や取り組みを伝えることで感染対策の向上や地域連携の構築につなげるため医療従事者向けのシンポジウムを開催しました。西市民病院では、地域の医療機関向けに新型コロナウイルス感染症対応に関するセミナーを開催し、情報を提供しました。西神戸医療センターでは近隣の障害者支援施設等へ感染管理認定看護師が感染管理に関する支援を行いました。また、神戸市ホームページにて市民病院機構の医療従事者が動画で市民へのメッセージを発信しました。



写真8 入院前PCR検査



写真9 ゾーニングした病棟



写真10 陽性患者への処置



写真11 退院後の清掃



写真12 来院時の検温



写真13 病院玄関の検温器



写真14 問診受付

写真15 感染防止対策をした
受付・待合

写真16 WEB面会



写真17 ワクチン接種



写真18 医療従事者向けシンポジウム



写真19 医療機関向けセミナー

写真20 動画メッセージ（神戸市HPより）
（R3.4以降の動画も含む）

<電話診療>

- 再診料（200床未満が対象）算定医療機関において、当該医療機関で初診を受けた患者について、治療上の意見を求められ、必要な指示をすること。新型コロナウイルス感染症の緊急措置により、200床以上の病院も対象となった。

5. 多くのご支援

市民・企業・団体の皆さんから応援のメッセージや感染対策に必要な物資など、多くのご支援をいただき、「こうべ医療者応援ファンド※」からも多額の配分（2.5億円相当）がなされました。これらのご支援は懸命に治療に取り組む医療従事者にとって大きな支えとなりました。また、中央市民病院では臨時病棟前などにキッチンカーが出張するプロジェクトが立ち上がり、医療従事者に対して休息のひと時を提供しました。



写真23 支援への感謝



写真24 支援への感謝



写真25 キッチンカー

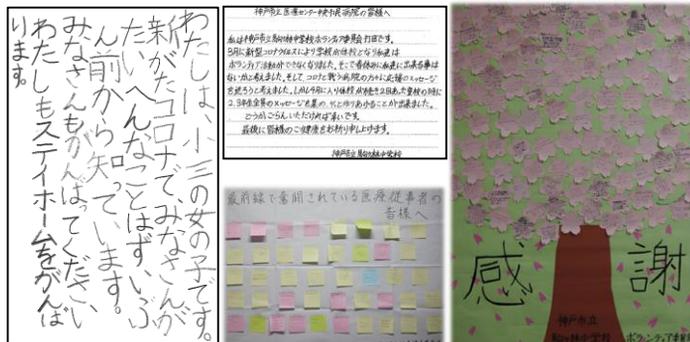


写真22 寄せられたメッセージ



写真21 こうべ医療者応援ファンド
ロゴマーク

令和3年3月31日時点

項目	医療資材	現金	食品	その他	合計
件数	333	290	43	7	673
備考	防護服、マスク等	1億6,769万円	飲料、パン等	花束、タブレット、手作りネックレス等	団体225件、個人448件

表1 ご寄付の内容

6. 患者数等の状況

【入院患者の状況】

令和3年3月31日 時点

病院	入院患者 総数	入院中	入院中 (隔離解除等)	退院等① (死亡)	退院等② (治癒確認)	退院等③ (宿泊療養施設)
中央	592人	44人	7人	58人	420人	63人
西	306人	18人	0人	34人	218人	36人
西神戸	366人	22人	0人	14人	286人	44人
計	1,264人	84人	7人	106人	924人	143人

※ 入院患者総数には、市外受入患者及び他院から転院した患者を含む。

(参考) 神戸市の発生状況

令和3年3月31日 時点

患者発生総数	入院患者総数	入院中	宿泊療養施設	自宅療養	入院調整中	死亡	治癒 (退院等)
7,076人	1,942人	186人	96人	55人	299人	213人	5,784人

<こうべ医療者応援ファンド>

新型コロナウイルス感染症患者の治療等に当たる医療従事者に感謝と連帯の気持ちを表し、その活動を応援するための寄付を広く市民や企業等から募集し、神戸市内の医療機関等に対し支援金を交付するため設置されたファンド。

7. 令和2年度の経過(主な出来事)

- 令和2年2月 中 央：帰国者・接触者外来を設置（5日）
 3月 中 央：新型コロナウイルス感染症患者受け入れ開始（2日）
 西神戸：帰国者・接触者外来を設置、新型コロナウイルス感染症患者受け入れ開始（11日）
 西：新型コロナウイルス感染症患者受け入れ開始（17日）
 帰国者・接触者外来を設置（23日）
 4月 中 央：「新型コロナウイルス感染症重症等特定病院」に指定（7日） 院内感染発生（9日）
 専用病棟設置（10日） 救急受入制限、新規入院・外来を一時停止（11日）
 西：専用病棟設置（20日） 西神戸：専用病棟設置（27日）
 5月 中 央：救急受入、新規入院・外来、手術を一部再開（11日）
 6月 中 央：3次救急・新規患者受入再開、手術拡大（3日） 救急外来再開（10日）
 8月 中 央：院内感染報告書を発表（7日）
 9月 神戸市の遠隔集中治療システム（T-ICU）事業を受託（1日）
 11月 中 央：臨時病棟（36床）運用開始（9日） 西：院内感染発生（23日）
 令和3年1月 中 央：専用病床を10床増床、全体で46床に（6日）（入院2割程度、手術2～3割程度制限）
 通常医療の制限及びコロナ受入病床の確保（22日～）
 西：専用病床を15床増床、全体で43床に（入院・手術を4割程度制限）
 2月 西神戸：専用病床を13床増床、全体で36床に（入院・手術を2割程度制限）
 中 央：専用病床を10床減床、全体で36床に（22日）
 3月 緊急事態宣言解除による医療提供体制の見直し（1日～）
 西：専用病床を15床減床、一般入院受入再開（入院・手術を2割程度制限）
 西神戸：専用病床を13床減床（入院・手術を1割程度制限）
 中 央：専用病床を10床増床、全体で46床に（17日）
 感染再拡大のため通常医療の制限による受入病床の確保（26日～）
 中 央：重症患者増加に伴う医療スタッフ確保のため通常医療の制限（入院を3割程度制限）
 西：専用病床を15床増床、全体で43床に（入院・手術を4割程度制限）
 西神戸：専用病床を13床増床、全体で36床に（入院・手術を3割程度制限）

8. 令和3年4月以降の動き(参考)

市民病院機構では感染拡大に対応するため、令和3年4月以降も専用病床を増やすとともに、入院調整中の自宅待機者の重症化を予防するため、自宅待機者への電話診療、中等症以上の自宅待機者に対しての医師・看護師等による訪問診療を開始しました。

また、中央市民病院・西市民病院・西神戸医療センターに全国から応援の看護師が派遣され、懸命な治療に取り組んでいます。さらに、5月25日からは神戸市が設置したワクチン大規模接種会場に市民病院機構の医師が問診・アナフィラキシー※対応のため、出務しています。



写真26 訪問診療のチーム(中央市民病院)



写真27 接種会場での問診(左)とアナフィラキシー対応(右)
(いずれもシミュレーション)

<アナフィラキシー>

- 薬や食物が身体に入ってから、短時間で起きることのあるアレルギー反応。じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が急に起こる。血圧低下や意識レベルの低下（呼びかけに反応しない）を伴う場合を、アナフィラキシーショックと呼ぶ。

本市の基幹病院・中核病院としての役割を踏まえた医療の提供

1. 救急医療・災害医療

救急医療については、**新型コロナウイルス感染症患者を受け入れながら**、安定した救急医療体制を構築し、各病院の機能と役割に応じた救急医療を提供しました。災害医療については、平時よりBCP※（事業継続計画）を意識した訓練等に取り組み、危機対応能力の向上を図りました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・帰国者接触者外来・専用病床の継続設置（中央・西・西神戸）（写真28）
- ・消防局との意見交換会の実施（本部・中央・西・西神戸）
- ・**全国救命救急センター評価※7年連続1位（中央）**（写真29）
- ・神戸空港航空機事故対策総合訓練へ参加（中央）（写真30）
- ・救急外来改修工事の実施（西・西神戸）（写真31）

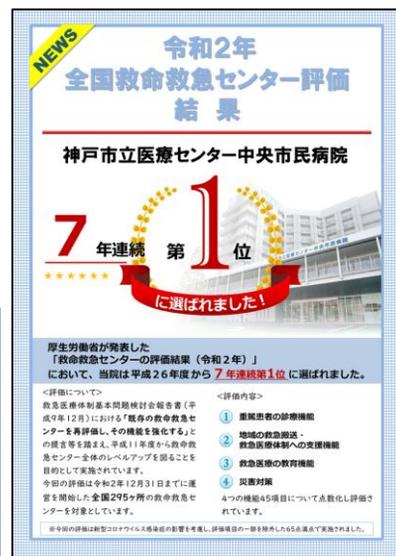


写真29 全国救命救急センター評価結果（中央）



写真28 帰国者・接触者外来（西神戸） 写真30 神戸空港航空機事故対策総合訓練（中央） 写真31 拡張された救急外来（西）

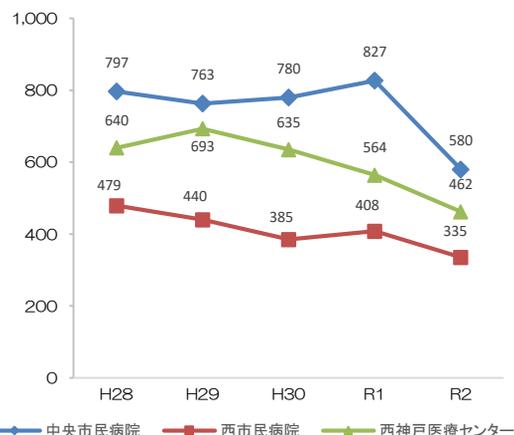
2. 小児・周産期医療

新型コロナウイルス感染症の影響により、分娩件数や小児患者数は減少したものの、地域医療機関との連携及び役割分担のもと、市民が安心して子供を産み育てられるように、質の高い小児・周産期医療を提供しました。（グラフ7）

◆令和2年度の主な取り組み

- ・胎児血流波形分析など最新の医療技術を用いたハイリスク出産への対応（中央）
- ・アレルギー疾患の体制強化（西）
- ・小児救急体制の安定的提供（西神戸）

グラフ7：分娩件数（件）



<全国救命救急センター評価>

- ▶ 厚生労働省において平成11年度から救命救急センター全体のレベルアップを図ることを目的として実施されている。診療体制や患者受け入れ実績等に関する報告に基づき点数化される。

<BCP>

- ▶ Business Continuity Plan：事業継続計画。大災害や大事故、社会的混乱など、通常の業務遂行が困難となる事態が発生した際に、事業の継続や復旧を速やかに遂行するために策定する計画。

3. 5疾病に対する専門医療の提供

地域医療機関との役割分担及び連携のもと、各病院が有する医療機能に応じて、5疾病※（がん、脳卒中、心血管疾患、糖尿病及び精神疾患）に対応した専門医療を提供しました。（グラフ8）

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 専門医による24時間体制での脳卒中診察（中央）
- ・ 保険者と協働のもと、事業者出張糖尿病チェックの実施（西）
- ・ 3テスラMRIの更新（西神戸）（写真32）

グラフ8：がん退院患者数（人）



4. 地域包括ケアシステム推進への貢献

中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センターは地域医療支援病院※として、各病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介を行うとともに、患者が安心して地域で療養できるように、地域の在宅診療医や介護施設、訪問看護ステーション等との連携を強化しました。



写真32：更新された3テスラMRI（西神戸）

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 医療専門サイトに診療トピックスを掲載（中央）（写真33）
- ・ 市街地西部の中核病院としての将来を見据えた役割、課題についての検討（西）（写真34）
- ・ 急性期機能の更なる役割発揮にむけた病床機能の転換（西）
- ・ 医師会・歯科医師会とのWEB協議会、地域合同カンファレンスの開催（西神戸）（写真35）



写真33：医療専門サイトへのトピックスの掲載（中央）



写真34：将来ビジョン検討委員会（西）



写真35：地域合同カンファレンス（西神戸）

<5疾病>

- ▶ 生活習慣病その他国民の健康の保持を図るために、特に広範かつ継続的な医療の提供が必要と認められる疾病として厚生労働省が定めた、がん・脳卒中・心血管疾患（急性心筋梗塞）・糖尿病・精神疾患のこと。

<地域医療支援病院>

- ▶ 医療施設機能体系化の一環として、紹介者に対する医療提供、医療機器等の共同利用等を通じて、かかりつけ医を支援する地域医療体制の中核を担う病院として、制度化されたもので、都道府県知事によって承認される。

神戸市立医療センター中央市民病院

1. 中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

新型コロナウイルス感染症への対応のため、帰国者・接触者外来を設置し、入院については重症・中等症患者を中心に受け入れました。その中でも、院内全体の病床運営の効率化に努め、救急医療の提供を継続しました。

厚生労働省より発表された「全国救命救急センター評価」において、7年連続で1位に選ばれました。

グラフ9：救急患者数の推移（人）

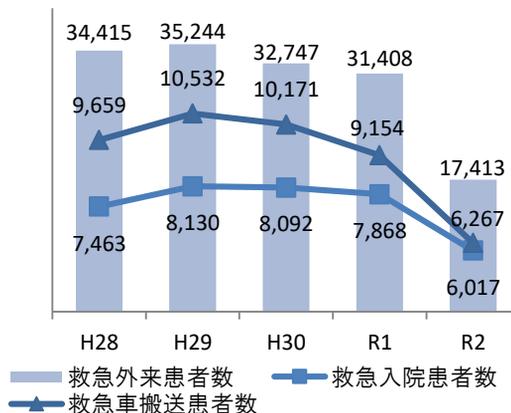


表2：救急車搬送応需率（%）

年度	H28	H29	H30	R1	R2
救急車搬送応需率	98.3%	98.9%	99.2%	98.7%	96.7%

◆令和2年度の主な取り組み

- 新型コロナウイルス感染症の重症・中等症患者を中心に受入
- 神戸市の遠隔ICUシステム※事業を受託（9月）（図1）
- 各種ホットライン※を継続
- 救急車応需率を高水準で維持（表2）
- 救急エリアのCT装置を更新（写真36）



写真36 更新した救急エリアのCT装置

図1 神戸市の遠隔ICUシステムのスキーム



写真37 新型コロナウイルス感染症の治療用として病院で2台目となるECMO(エクモ)装置を整備

出典：神戸市ウェブサイト（<https://www.city.kobe.lg.jp/a65055/192087631836.html>）

<遠隔ICUシステム>

- 株式会社T-ICUが提供する、集中治療専門医が遠隔地からネットワークを通じて診療支援を行うシステム。神戸市が新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを行う市内の医療機関に対し導入を進めている。中央市民病院が感染症指定医療機関としての実績を踏まえ、T-ICUに対してその知見を共有し、治療方針等の助言を行う。

<ホットライン>

- 地域医療機関からの受入れ要請や相談に対応する為の専用電話回線で、救急受付を通さずに直接診療科の担当医師に繋がる。現在、脳卒中、胸痛、産科、小児科、心臓血管外科のホットラインを設置している。

(2) メディカルクラスターとの連携による

先進的ながん治療等の提供

メディカルクラスター※の中核病院として、高度専門病院との病病連携に引き続き取り組みました。

(グラフ10)

がん治療については、手術支援ロボット(写真38)による身体への負担が少ない手術や化学療法による治療、がんゲノム医療等も活用しました。



写真38 ロボット手術の様子

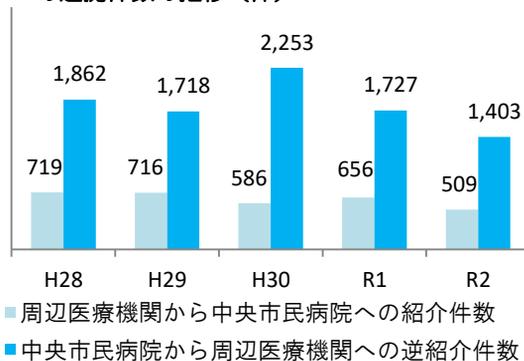


写真39 がんゲノム医療講演会のポスター



写真40 CAR-T細胞療法の事前準備の様子

グラフ10: 中央市民病院の周辺医療機関※との連携件数の推移(件)



◆令和2年度の主な取り組み

- ・メディカルクラスター内でのがん医療連携
- ・難治性のがん治療CAR-T細胞療法※(キムリア®)の開始(写真40)

(3) 神戸医療産業都市の中核機関として 治験・臨床研究の更なる推進

医師主導治験や特定臨床研究※の支援体制の強化や、「認定臨床研究審査委員会(CRB)」の安定的な運営に努め、治験・臨床研究を推進しました。(グラフ11)(表3)

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ covid-19に係る医療産業都市進出企業との共同研究

グラフ11: 治験・臨床研究件数の推移(件)

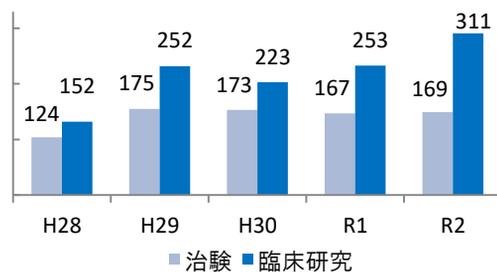


表3: 特定臨床研究・医師主導治験実施件数(件)

項目	R1	R2
特定臨床研究	82	86
うち当院が研究責任者	4	8
医師主導治験	11	13
うち当院が研究責任者	3	3

<メディカルクラスター>

▶ 神戸医療産業都市において高度医療や専門医療を提供する医療機関群のこと。中央市民病院は、その中心的役割を担っている。

<周辺医療機関>

▶ 周辺医療機関は神戸低侵襲がん医療センター、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院、一般財団法人神戸マリナーズ厚生会ポートアイランド病院、県立こども病院、神戸大学医学部附属国際がん医療・研究センター及び神戸陽子線センター。

<CAR-T細胞療法>

▶ 白血病やリンパ腫の一部に対する新たな治療法。白血球の一種であるT細胞を遺伝子導入により改変し、患者に投与することで、患者自身の免疫システムを利用してがんを攻撃する治療法。

<特定臨床研究>

▶ 治験・臨床研究実施基準遵守義務により質が担保された臨床研究のうち、「未承認あるいは適応外の医薬品等を使うもの」「製薬会社等から資金提供を受けるもの」のいずれかに該当する研究。

(4) 県立こども病院等と連携した高度な小児・周産期医療の提供

総合周産期母子医療センター※として、産科合併症や合併症妊娠等のハイリスク妊娠・出産への対応を行いました。(グラフ12)(写真41)

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 県立こども病院との相互補完の連携体制
- ・ 連携登録施設との情報共有、ホットラインの継続

グラフ12：ハイリスク妊娠及びハイリスク分娩件数(件)

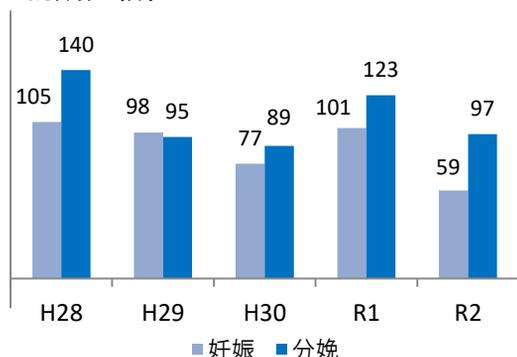


写真41 妊婦のコロナ患者に備え、専用の分娩監視装置や保育器などを整備

(5) 第一種感染症指定医療機関※としての役割の発揮

市内唯一の第一種感染症指定医療機関として、市、県及び地域医療機関と連携を図り、速やかに患者を受け入れられる体制を整備し、市民の安全確保に取り組みました。

※新型コロナウイルス感染症への対応は別項目(P7)

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応



写真42 感染防護衣の着脱訓練の様子

2. 共通の役割

(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

院内研修会の積極的な開催、各種医療安全マニュアルの見直しおよび院内ネットワークへの掲載等、医療安全管理体制の強化に取り組みました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ C I※・Q I※に関する取り組みをホームページに掲載
- ・ 病院の取り組みをまとめたQ I冊子を作成し院内外へ配布(写真43)

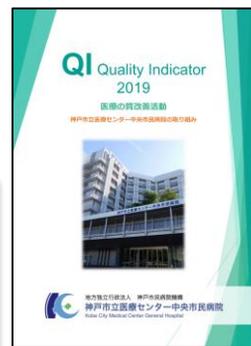


写真43 作成したQI冊子

<総合周産期母子医療センター>

- 新生児集中治療管理室(NICU)や母体・胎児集中治療簡易室(MFICU)を備え、重い妊娠中毒症や切迫早産等危険性の高い妊婦と新生児に24時間体制で対応可能な医療機関。

<第一種感染症指定医療機関>

- 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律で定められた一類感染症、二類感染症又は新型インフルエンザ等感染症の患者の入院を担当させる医療機関として都道府県知事が指定した病院。

<C I : Clinical Indicator >

- 臨床評価指標(クリニカルインディケーター)。病院の機能や診療の状況などについて、様々な指標を用いて具体的な数値として示した。指標を分析し改善することで医療の質の向上を図る。

<Q I : Quality Indicator >

- 医療の質の指標(クオリティインディケーター)。病院の機能や診療、サービスの質について、様々な指標を用いて客観的な数値で示した。指標を分析し改善することで医療の質の向上を図る。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

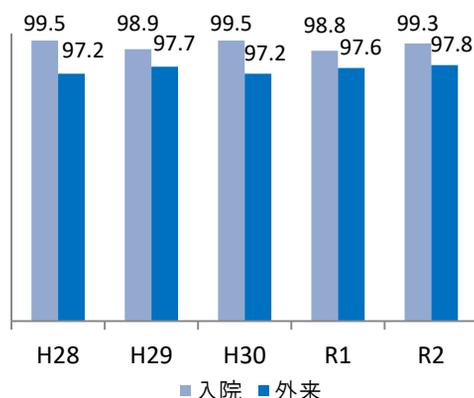
患者サポートセンターでの相談やセカンドオピニオンを実施するとともに、インフォームド・コンセントの徹底に取り組みました。

患者満足度調査、外来待ち時間調査を実施し患者サービス向上に取り組みました。(グラフ13)

◆令和2年度の主な取り組み

- ・医療費後払いサービス※導入による会計待ち時間の短縮(3月)(写真44)
- ・新型コロナウイルス感染症患者や面会制限に伴う入院患者のため、WEB面会を開始(11月)

グラフ13：患者満足度調査(非常に良い、良いの割合)の推移(%)



(3) 市民への情報発信

ホームページや患者向け「しおかぜ通信」のほか、各種マスコミ広報誌からの取材依頼を積極的に受け入れ、患者や市民に情報発信しました。



写真45 病院ホームページ内の新型コロナウイルス専用ページ

◆令和2年度の主な取り組み

- ・病院ホームページ内に新型コロナウイルス感染症の専用ページを作成し迅速に情報を発信(写真45)
- ・患者向け広報誌「しおかぜ通信」の発行(写真46)



写真44 医療費後払いサービスのパンフレット・領収書発行機



写真46 患者向け広報誌「しおかぜ通信」

<医療費後払いサービス>

- ▶ 事前にスマホ等でクレジットカードを登録することで、診察終了後、会計を待たずに、そのまま帰宅できるサービス。
当日の会計は、登録されたクレジットカードから後日決済され、領収書については決済後、院内の専用発行機にて発行可能となる。

神戸市立医療センター西市民病院

1. 西市民病院の役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の患者を24時間受け入れる救急医療の提供

全職種・全診療科による連携のもと新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行うとともに、救急外来拡張工事を実施、受け入れ体制を強化し、安定した救急医療体制を提供しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 新型コロナウイルス感染症患者の受入
- ・ 兵庫県救急医療功労者表彰受賞(写真47)
- ・ 救急外来の拡張工事を実施(12月)

グラフ14: 救急患者数の推移(人)

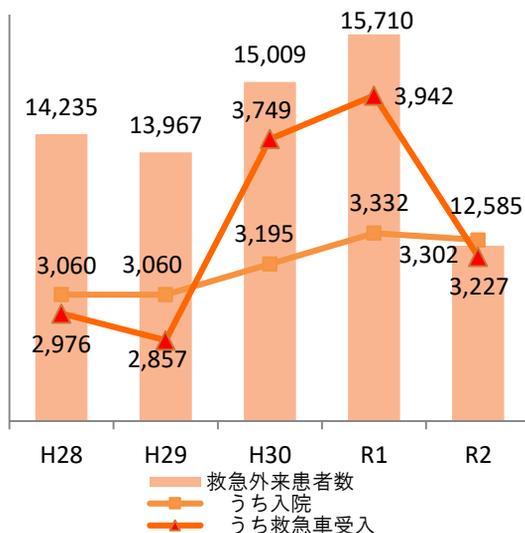


写真47 兵庫県救急医療功労者表彰受賞

(2) 地域のハイリスク出産に対応できる周産期医療の提供

市街地西部唯一の周産期対応総合病院として、正常分娩だけでなく高齢出産・基礎疾患等をもつ妊産婦をはじめとしたリスクの高い分娩に対応するとともに、助産師外来(写真48)を継続して実施し、安定的な周産期医療を提供しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 他科との連携のもとリスクの高い分娩への対応
- ・ 出産時のリモート立ち合いの実施(写真49)
- ・ 子宮外妊娠診断にかかるhCG検査※の院内実施



写真48 助産師外来



写真49 リモート立ち合いの様子

<hCG検査>

▶ ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量検査。妊娠の診断とその経過観察、流産や子宮外妊娠の補助診断、絨毛性疾患や悪性腫瘍の術後管理などに用いられる。

(3) 地域需要に対応した小児医療の提供

神戸市が実施する小児二次救急輪番※において長田区で唯一の体制確保を継続し、地域における小児救急医療を安定的に提供しました。また、小児アレルギー講習会や地域の医療職等を対象とした「アレルギー児に対する地域連携の会」を開催しました。



写真50 アレルギー児に対する地域連携の会

◆令和2年度の主な取り組み

- 小児二次救急輪番体制確保の継続
- 「アレルギー児に対する地域連携の会」を実施(写真50)
- 病児保育の運営開始(2月)(写真51)



写真51 病児保育室

(4) 認知症患者に対する専門医療の提供

認知症鑑別診断※等の継続実施により「認知症の人にやさしいまちづくり」に寄与しました。また、市内の認知症疾患医療センターと合同研修会を実施しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- 市民公開講座を開催し、認知症へのそなえ・認知症となっても困らない生活様式の啓発活動(写真52)
- 「認知症疾患医療センター合同研修会」の実施(3月)(写真53)

グラフ15: 認知症鑑別診断件数の推移(件)

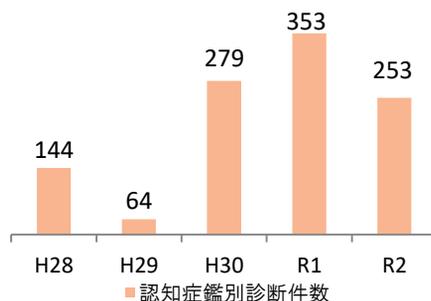


写真52 市民公開講座



写真53 認知症疾患医療センター合同研修会(WEB開催)

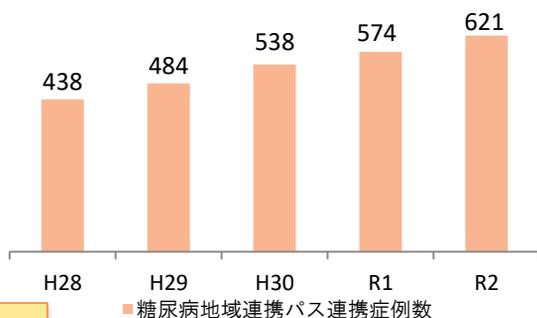
<病院群輪番制>

神戸市内の救急医療確保のため、市内の医療機関が毎日交替で当番病院として救急医療にあたる制度。小児救急医療のほか、内科系、外科系、脳疾患、循環器疾患、整形外科、消化器外科などがある。

<認知症鑑別診断>

CT、MRI、脳血流検査等の画像検査、記憶・知能等に関する心理検査等を行い、認知症の種類や状態を正確に把握すること。

グラフ16：糖尿病地域連携パス連携症例数の推移(件)



(5)生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組み

糖尿病地域連携パスやワンタイム連携※の運用による地域医療機関との連携のほか、保険者と協働して地域の事業所において出張糖尿病チェックを実施し、生活習慣病の重症化予防へ貢献しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ ホームページでの糖尿病に関する情報発信(写真54)
- ・ 保険者と協働のもと、事業者出張糖尿病チェックの実施(10月)(写真55)

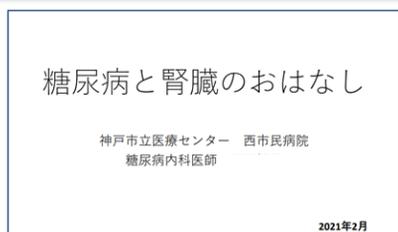


写真54 ホームページを通しての情報発信



写真55 出張糖尿病チェック

2. 共通の役割

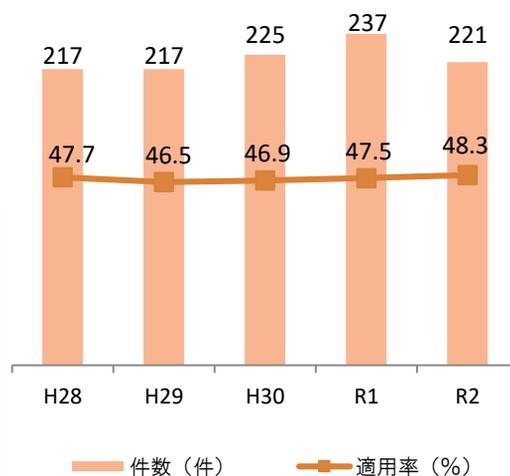
(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

週1回医療安全管理室によるミーティングを実施し、事例検討・討議を通して情報共有を行いました。医療安全教育については、医療安全研修会をeラーニングにより実施しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 中央市民病院、アイセンター病院と医療安全に関する相互監査を実施
- ・ 画像診断既読管理システム※の導入準備
- ・ クリニカルパス委員会によるパス適用率向上の検討(グラフ17)

グラフ17：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



<ワンタイム連携>

地域の医療機関からのニーズが多い「糖尿病薬物療法を選択」および「栄養相談実施」を、病院への一度の紹介受診のみで実施する取り組み。

<画像診断既読管理システム>

画像診断報告書等の見落としを防止するため、主治医が画像診断報告書を確認したか管理するシステム。画像診断報告書等の確認不足による医療事故が発生していることを踏まえ、厚生労働省が注意喚起を行っていた。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

来院者の不安や質問にきめ細かく対応するため、フロアマネージャーなどを配置するとともに、混雑緩和のため、自動精算機および会計案内表示システムを導入し、会計待ち時間の短縮を図りました

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 自動精算機、会計案内表示システムの導入（1月）（写真56、57）
- ・ 院内に病院のあゆみ等に関するパネル展示（写真58）



写真56 自動精算機

(3) 市民への情報発信

50周年記念事業を実施し、病院の取り組みに関する情報発信を行いました。また、市民向け広報誌「虹のはし」やホームページにより、わかりやすい情報発信を行いました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 感染症の対応などについてホームページを通じた適切な情報発信
- ・ 50周年記念事業の実施（10月）（写真59、60）
- ・ 利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」を定期的に発行

グラフ18：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）の推移（%）

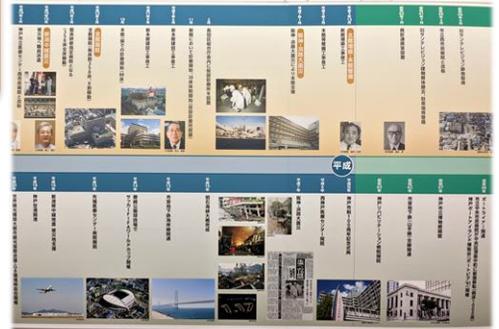
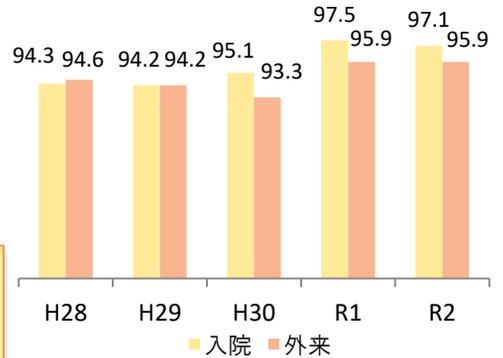


写真58 病院のあゆみ等に関するパネル展示



写真59 50周年記念事業



写真60 50周年記念事業のパンフレット

神戸市立西神戸医療センター

1. 西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供

(1) 地域の医療機関と連携した24時間体制での救急医療の提供

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行いながらも、救急医療体制の制限を行うことなく、市民の生命を守ることに努めました。救急車搬送患者の受け入れに至らなかった理由を適時議論するとともに、各診療科長へ受け入れ促進を図りました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ **新型コロナウイルス感染症患者の受入**
- ・ 救急隊との情報共有等、密な連携の継続
- ・ 各ホットラインの継続による救急患者のシームレスな受入
- ・ 救急外来の改修工事の実施（写真61）

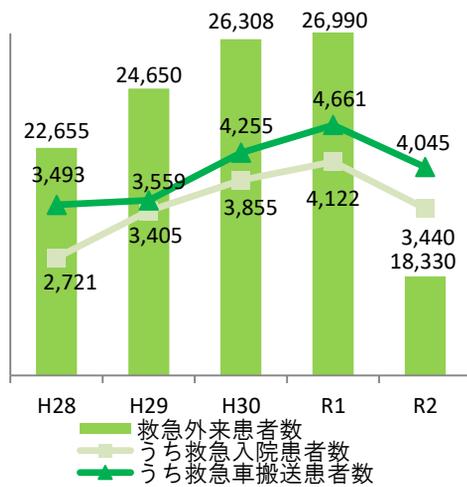
(2) 地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

診療制限を行うことなく連日の小児救急外来を継続するとともに、毎週土曜日と第2、第3水曜日の小児救急輪番を担当しました。また、救急外来の受け入れ時間中に要請のあった救急車は概ね100%受け入れました。（グラフ20）

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 全ての曜日の小児救急の受け入れ継続
- ・ 毎週土曜日と第2、第3水曜日の小児救急輪番を担当
- ・ 明石市や三木市などの周辺地域も含めて小児救急体制を安定的に提供

グラフ19：救急患者数の推移（人）

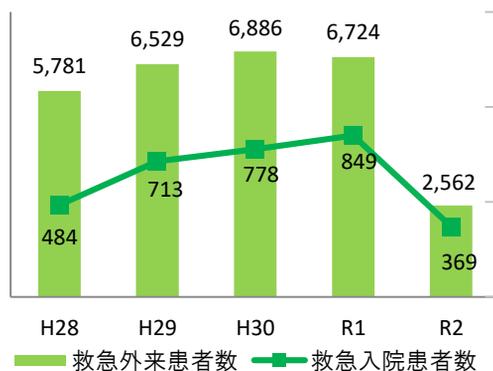


※H28は救急外来患者数、救急入院患者数は参考値となる（H28は時間内救急患者数を含まない）



写真61 増設した救急外来診察室

グラフ20：小児（15歳以下）救急患者数の推移（人）



(3) 地域周産期母子医療センター機能の提供

周産期医療については、地域医療機関での対応が困難な合併症妊娠や切迫早産等のハイリスク妊娠・ハイリスク分娩（全分娩の約15%）の受け入れのほか、32週以降の母体搬送の受け入れ等、質の高い安定した周産期医療の提供に引き続き取り組みました。（写真62）



写真62 6階周産期センター

(4) がん患者への集学的治療の提供と幅広い支援

国指定の「地域がん診療連携拠点病院」として、高精度の放射線治療が可能となる装置（リニアック*）（写真63）及び3テスラMRI*装置の更新を行いました。また、引き続き手術支援ロボットによる身体への負担の少ない手術の提供に努めました。（表4）

疾 病	症例数
前立腺がん	58件
腎がん	33件
膀胱がん	9件
腎盂がん	2件
胃がん	21件
直腸がん	19件
肺がん	10件
縦隔腫瘍	9件

表4 手術支援ロボットによる手術の実績

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ がん相談支援センターによるがん患者の就労支援への適時適切な取り組み等の継続（写真64）
- ・ 入院前支援センターでのがん患者の栄養相談の開始（写真65）
- ・ 緩和ケアチームによるがん患者の円滑な転院・在宅支援等の実施（写真66）



写真63 更新されたリニアック



写真64 がん相談支援センター



写真65 入院前支援センターでの栄養相談



写真66 緩和ケアチームによる回診

<リニアック>

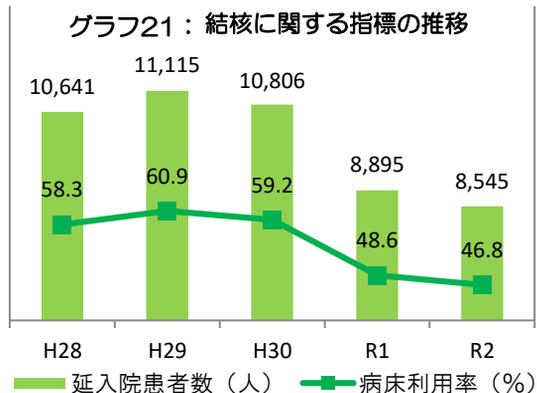
- Linear acceleratorのことで、日本語では「直線加速器」といわれるもの。電気によって高速の素粒子を作り出し、そこから発生するX線や電子線を用いて放射線治療を行なう外部照射装置。基本的には、全身のどの部位でも治療が可能。

<3テスラMRI>

- Magnetic Resonance Imagingの略。強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の利用して体の臓器や血管を撮影する検査。また、テスラとは磁場の強さを現わしており、従来の1.5テスラの装置に比べ解像度が向上・撮像時間短縮が可能となった。

(5) 結核医療の中核機能の提供

市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者の専用病棟、結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し、引き続き総合的な結核医療を安定的に提供しました。（グラフ21）

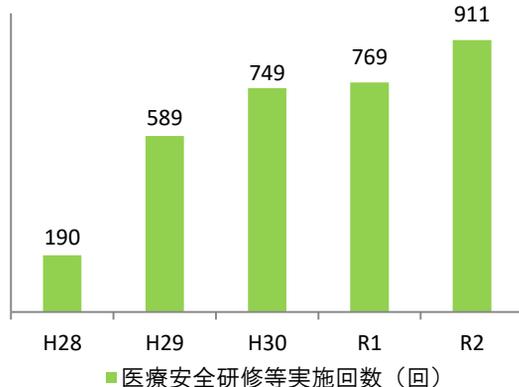


2. 共通の役割

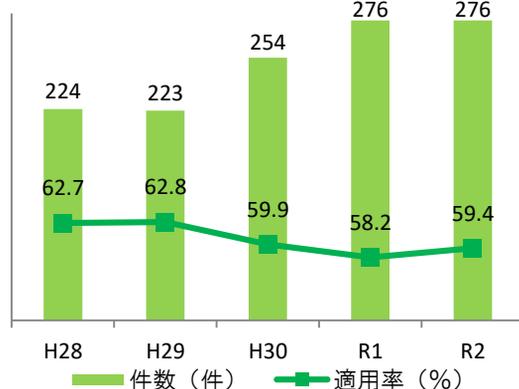
(1) 安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全推進室を中心に、週1回ミーティングを行い（写真67）、迅速な情報収集及び分析を継続して実施しました。実際のインシデント等への対策として注意喚起文やレターを適宜発行（写真68）するとともに、関連事項について研修（グラフ22）内容に盛り込む等、職員への啓発を図りました。

グラフ22：医療安全研修等実施回数（回）



グラフ23：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



◆令和2年度の主な取り組み

- 病理診断レポートの既読管理システム※の導入（3月）（写真69）
- インシデント等の対策としての注意喚起文やレターの発行
- クリニカルパス※小委員会での現状把握と適用率向上に向けた進め方の検討（グラフ23）



写真67 医療安全推進室のミーティング



写真68 インシデント注意喚起文

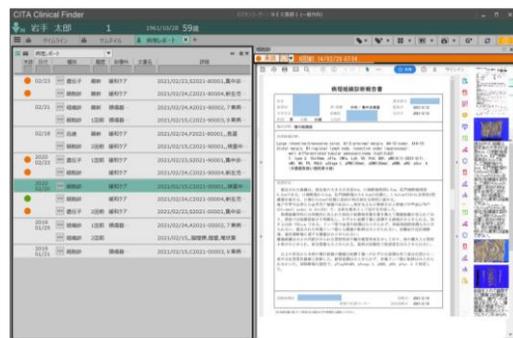


写真69 病理診断レポート既読管理システム

<病理診断既読管理システム>

- 病理診断報告書の見落としを防ぐために、一定期間報告書を確認していなければ、電子カルテにログインすると注意文が表示されるシステムのこと。

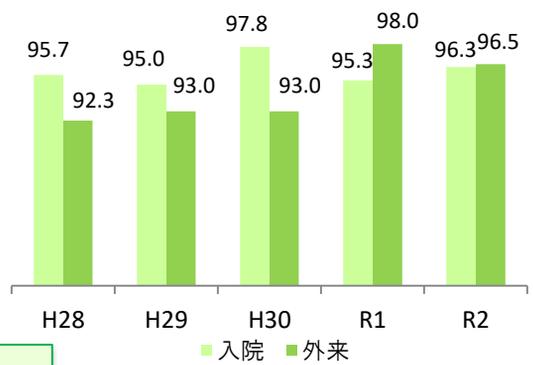
<クリニカルパス>

- 病気に対する、検査・処置・食事・服薬等、患者が受ける治療や看護ケア等の標準的なスケジュールを、疾患や治療ごとに時系列に沿って一覧にまとめた計画書のこと。

(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

平日の来院患者数がピークとなる時間帯において、総合案内に看護副部長または外来看護師長と委託職員を配置し、診療科相談や受診手続きの説明やアドバイス等、きめ細やかなサービスを継続して提供しました。

グラフ24：患者満足度調査（非常に良い、良いの割合）の推移（%）



◆令和2年度の主な取り組み

- あいさつ推進ポスターの作成（写真70）
- 無料Wi-Fiサービスの継続及び要望に応じた電波強度見直し
- クリスマスコンサートのビデオ配信の実施（写真71）
- 出産後に提供するお祝い膳のリニューアル（写真72）



写真70 あいさつ推進ポスター



写真71 クリスマスコンサートのビデオ配信



写真72 リニューアルしたお祝い膳



写真73 患者向け広報誌「そよかぜ」

(3) 市民への情報発信

患者さんや一般市民を対象とした院内広報誌「そよかぜ」の定期的な発行やホームページのタイムリーな更新を行い、当院で取り組んでいる効率的ながん治療法の紹介、更新した大型医療機器の説明等、わかりやすく新しい情報の提供に努めました。

◆令和2年度の主な取り組み

- 広報誌「そよかぜ」の定期発行（写真73）
- 糖尿病教室だよりの定期発行とWEB公開（写真74）
- がん診療及び感染症に関する情報の提供



写真74 糖尿病教室だよりの定期発行とWEB公開

神戸市立神戸アイセンター病院

1. 神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供

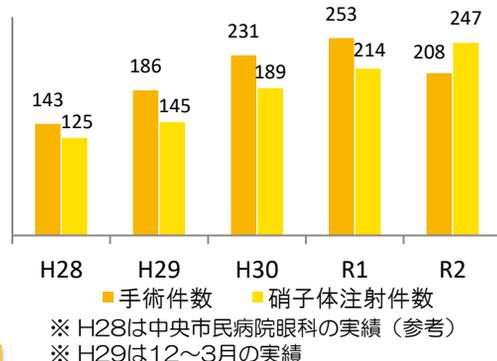
(1) 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

眼科専門領域を網羅した診療体制のもと、質の高い医療の提供を継続しました。

日中は当番医、休日夜間はオンコール体制により24時間365日体制で眼科救急に対応しました。

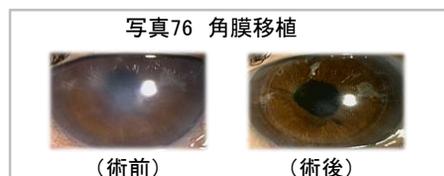
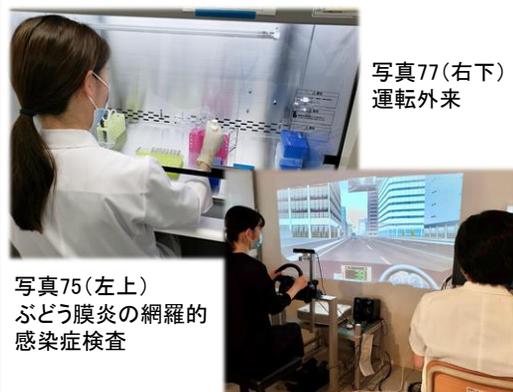
体制を強化して、継続的な治療が必要な硝子体注射の件数増を図りました。（グラフ25）

グラフ25：手術件数・硝子体注射件数（件/月）



◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 緊急患者対応や感染対策等を県下眼科医療機関に周知
- ・ WEBでのオープンカンファレンス等実施
- ・ 遺伝カウンセリング及び遺伝子解析を継続実施
- ・ ぶどう膜炎等の難治性眼感染症疾患に対する網羅的感染症検査※を継続実施（写真75）
- ・ 角膜移植（写真76）や緑内障薬剤師外来、運転外来※の継続実施（写真77）、さらに斜視視能訓練の開始



(2) 治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

iPS細胞から作製した網膜シートを移植する**世界初の臨床研究を実施**しました。

網膜色素上皮（RPE）細胞移植では、安全性が確認できたことから、**対象疾患の拡充と移植の有効性の確認**を目的に、網膜色素上皮（RPE）不全症※を対象とした臨床研究を開始しました。



写真78 網膜シート移植の様子

<網羅的感染症検査>

> 眼感染症の原因であるウイルス、細菌などに対して、ごくわずかな眼の検体をもとに網羅的かつ迅速に調べることができる検査。

<運転外来>

> ドライビングシミュレータを体験し、左右からの飛び出しなどに対する反応や事故を回避できるかどうかを確認。その結果をもとに視野欠損が運転能力に及ぼす影響を検討し、安全運転のために必要な注意点について助言を行う。

<網膜色素上皮（RPE）不全症>

> RPE細胞の異常が原因で引き起こされる網膜変性疾患の疾患群。加齢黄斑変性の萎縮型、網膜色素変性の一部及びその類縁疾患等が該当する。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 世界初となる網膜シート移植では、予定した2例の移植を完了（写真78）
- ・ 網膜色素上皮（RPE）不全症に対する臨床研究では、今年度1例の移植手術を実施（写真79）
- ・ iPS細胞を加工するための特定細胞加工施設を整備
- ・ 基礎研究に関する研究倫理審査委員会の立ち上げ
- ・ 遺伝性網膜変性疾患を対象とした遺伝子パネル検査システムについて、先進医療の届出に向けた検討を開始



写真79 網膜色素上皮細胞移植のオンライン記者会見

(3) 視覚障害者支援施設等と連携した患者の日常生活支援

視覚障害者支援を実践する公益社団法人NEXT VISION 協力のもと、生活・就労相談、視覚的補助具・補装具の紹介等、視覚障害者への支援を継続しました。

新たにオンラインでの相談窓口を開設するなど、視覚障害者への支援が可能な体制を整備しました（写真80）。



写真80 オンラインによる相談窓口

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 視覚障害者の移動を援助する「ナビレンズ※」の実証実験を開始（写真81）
- ・ 音声読み上げソフト「ユニボイス」を広報誌に加え、入院パンフレットにも追加
- ・ 入院中の食事に関する嗜好調査を継続実施（満足度は3年連続9割超）
- ・ ロービジョン※患者を対象に、食器の色と料理のコントラストに配慮した食事の満足度に関する調査を開始（写真82）



写真81 「ナビレンズ」の実証実験



写真82 ロービジョン患者を対象とした調査の食事例

<ナビレンズ>

▶ 情報が埋め込まれたタグ（四角形のカラーな図柄）とそれを読み取るアプリで構成されている。例えば、施設の壁にタグを貼っておき、アプリを起動してスマホをかざすと、タグをキャッチし、情報を音声で知らせてくれる。

<ロービジョン>

▶ 何らかの事情により、視機能が低下し、視覚に障害がある状態。

(4) 診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

人材育成を積極的に推進するため、新たに機能向上推進室を設置し、年間を通じた研修を企画・実施しました。

薬剤師や視能訓練士に対して学会発表と論文作成を医師が指導し、件数が増加しました。



写真83 各部門からの発表例

◆令和2年度の主な取り組み

- 新たに各部門の取組内容を研修会で発表（写真83）
- スタッフサイトを開設し、研修動画を配信（写真84）
- 業績に応じて研究費を配分する医師評価制度を継続
- 各部門に研究費を追加配分する制度を整備



写真84 スタッフサイト

2. 共通の役割

(1)安全で質の高い医療を提供する体制の構築

医療安全ミーティングを継続し、インシデントレポートを検証し、改善を図りました。あわせて、報告件数の目標設定のもと、事例発生時に記入を促すことで目標件数を達成しました。

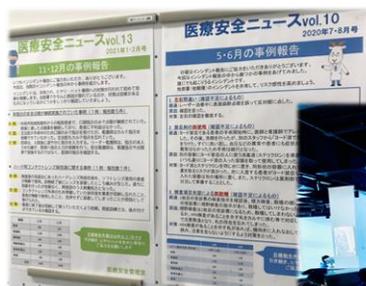


写真85 啓発ポスター

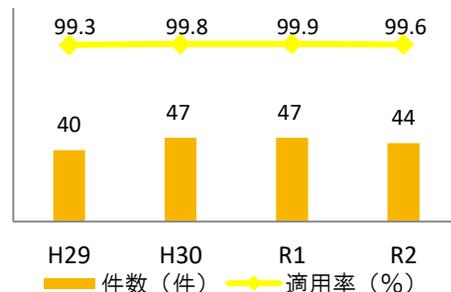


写真86 医療安全（急変時対応）研修

◆令和2年度の主な取り組み

- 発生件数の多いインシデントに対する予防策や取り組みを医療安全ニュースを発行して周知（写真85）
- 全職員を対象に医療安全研修を複数回実施（写真86）
- 緊急時等を除き全例でクリニカルパス適用（グラフ26）

グラフ26：クリニカルパス数(件)・適用率(%)



(2) 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

毎日、外来患者や退院患者へのアンケートを行い、幹事部会等で全件共有し、必要な改善を行いました。

患者満足度調査では、入院・外来ともに「満足」の割合が高まり、入院では3年連続100%となりました。

（グラフ27）

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、安心して入院・通院ができる環境作りに取り組みました。

◆令和2年度の主な取り組み

- NEXT VISION参画のもと、新たに患者サービスコミーティングを毎週実施
- 会計待ち時間の短縮を図るため、自動精算機を導入
- 受付前への案内職員の配置により、サポート体制整備
- 患者意見を踏まえ、患者呼び出し方法の変更、カードホルダーの配付等を実施
- 外来待合椅子の見直しや空気清浄機を設置、外来表示板の増設等

グラフ27：患者満足度調査（満足、やや満足の割合）の推移（％）

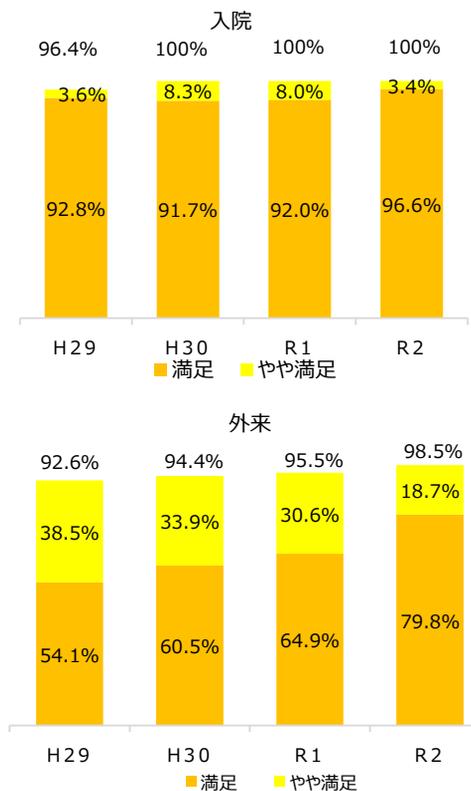


写真87 臨床研究に関する新聞記事

(3) 市民への情報発信

世界初の網膜シート移植や網膜色素上皮（RPE）細胞移植に関して記者発表を行い、新聞・雑誌やテレビ等で取り上げられました。（写真87）

◆令和2年度の主な取り組み

- 新型コロナウイルス感染症対策や臨床研究の開始等、病院の取り組みをホームページに適宜掲載
- 世界緑内障週間※参加による定期検診の推奨（写真88）
- 定期的な患者向け広報誌の発行（写真89）



写真88 世界緑内障啓発ポスター



写真89 患者向け広報誌

<世界緑内障週間>

- ▶ 世界緑内障連盟と世界緑内障患者連盟による、緑内障を多くの方に知ってもらう取り組み。緑内障は日本での中途失明原因第一位の疾患であり、早期発見に向けて、全国的に啓発を行っている。

優秀な職員の確保と人材育成

1. 優れた専門職の確保と人材育成

(1) 職員の能力向上等への取り組み

資格取得支援制度、留学制度等により職員の能力向上等の支援を継続しました。(グラフ28 表5)

今後の神戸市民病院機構を担う新卒世代の職員に加え、即戦力となってリーダー的な役割を担える人材の確保にも努めました。(グラフ29)



写真90 オンラインでの病院説明会の様子

写真91 WEB面接の様子

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 看護職員確保のため、「特別推薦選考」を実施
- ・ オンラインでの学校訪問や病院見学の実施(写真90)
- ・ 面接試験においてWEB面接を実施(写真91)

(2) 職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築

人事評価結果を給与等へ反映する等、職員の能力及び業績に基づく人事給与体制の構築に継続して取り組みました。また、主任選考の実施を継続し、優秀で意欲的な職員の登用を積極的に行いました。

働き方改革の推進では、医師や看護師の業務負担の軽減を目指し、医療クラークや病棟クラークの配置を継続し、職員間の連携や役割分担を進めました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、産前休暇前の休職制度を創設
- ・ 主に事務局を対象とした在宅勤務制度の創設
- ・ 法人固有職員の主任選考の実施を継続(表6)

グラフ28：資格取得支援制度利用者推移(人)

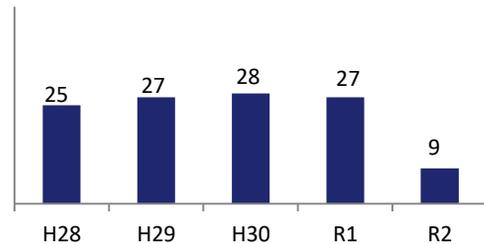


表5 主な制度の利用者数(R2)

制度	利用者数
資格取得支援制度	9名
看護職員長期留学制度	1名
助産師学校留学制度	1名
大学院留学制度	4名

グラフ29：職員数の推移(人)



※各年度3月31日の職員数
(正規職員のほか、任期付医師、専攻医、研修医を含む)

表6 令和2年度法人固有職員の主任選考合格者数

職種	合格者数
薬剤師	3名
臨床検査技師	2名
診療放射線技師	4名
理学療法士	2名
臨床工学技士	1名
管理栄養士	1名
臨床研究コーディネーター	1名
事務職員	2名
看護職員※	8名

※看護職員については、従前どおり主任看護師選考を実施。

(3) 人材育成等における地域貢献

新型コロナウイルス感染症の感染状況に配慮しながら、医師、看護師をはじめとした医療系学生の受け入れを継続し、教育病院としての役割を果たしました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 積極的な看護学生の受け入れ継続
- ・ レジデント制度※等、医療系学生の積極的な受け入れ
(写真92)



写真92 医学生向け病院見学会の様子(中央)

2. 効率的な業務運営体制の構築

(1) PDCAサイクルが機能する仕組みの構築及び法令遵守(コンプライアンス)の徹底

理事長によるヒアリングを通じた年度計画の達成状況及び課題の把握等、機構内における情報共有を図り、PDCAを意識した取り組みを進めました。また、毎月の常任理事会や四半期ごとの理事会における月次決算や決算見込、新型コロナウイルス感染症への対応等の報告において、病院ごとの運営状況を把握するとともに、課題が発見された際は迅速な対応を行いました。

さらに前月の時間外勤務状況及び休暇取得状況の報告・共有を行うとともに、所属及び個人宛への通知やヒアリングを実施するなど、法令順守及び職員の健康確保の取り組みを進めました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 理事長ヒアリング、院長ヒアリング、本部長ヒアリングの実施
- ・ 全職員を対象としたコンプライアンス研修の実施
- ・ 監事監査、会計監査等の内部監査の実施

(2) 市民病院間における情報連携体制の強化

市民病院機構 4 病院の医療情報システムを、コスト・機能・運用・連携など様々な観点から評価し、次回の更新(令和8年を目途)を最適な形で実現することを目的とした「医療情報システム最適化基本計画」を策定しました。また、理事長をトップとする検討委員会及び各施設のワーキングを開催し、システム最適化に向けた取り組みを推進しました。

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 「医療情報システム最適化基本計画」を策定
- ・ 医療情報システム最適化検討委員会、各施設のワーキングを開催

<レジデント制度>

- ▶ 実務経験に根ざした講義と臨床実務実習を通して、高度急性期医療・地域連携に対応した臨床能力を身に付け、チーム医療を実践できる医療技術職員を育成するため作られた制度。2年間の研修期間を設けている。

経営状況について

1. 経営改善に関する取り組みと経常収支目標の達成

(1) 共通の取り組み

各病院において院長ヒアリングを年に数回実施し、各診療科や部門における現状分析や課題の共有を図りました。また、診療報酬改定の機会を捉え、新たな加算や上位基準の取得を進め収益増加を図りました。

新型コロナウイルス感染症に対応するため、流行状況に応じて、一般病床の閉鎖や専用病床への人員の集約を行いながらも円滑な病床運営・専用病床の確保を行いました。

(2) 中央市民病院

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 医療専門サイトに当院の取り組みを掲載
- ・ 地域医療機関に対し紹介患者のWEB予約を開始
- ・ 夜間100対1 急性期看護補助体制加算の取得によるDPC係数の向上
- ・ 共同購入の対象物品拡大による材料費の削減

(3) 西市民病院

◆令和2年度の主な取り組み

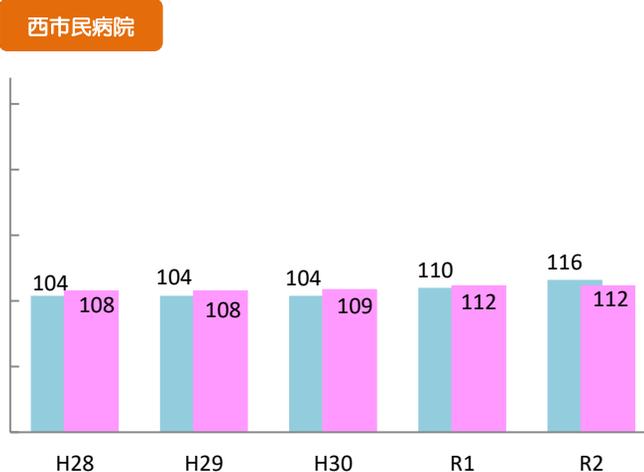
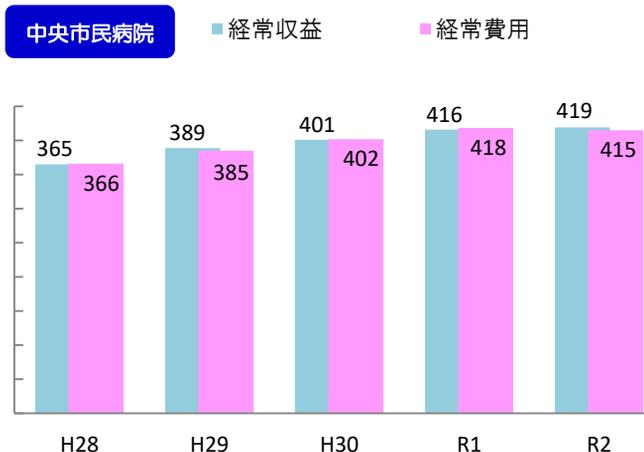
- ・ 地域包括ケア病棟を急性期一般病床へ転換、総合入院体制加算2の取得
- ・ 夜間100対1 急性期看護補助体制加算等の取得によるDPC係数の向上
- ・ 試薬購入方法の見直しによる費用削減

(4) 西神戸医療センター

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 救急車の積極的な受け入れ
- ・ 看護師職員夜間12対1 配置加算1等の取得によるDPC係数の向上
- ・ 新たに更新したりニアックを活用した収益増加

グラフ30：経常収益・経常費用（億円）



西神戸医療センター ※ H28までの西神戸の主要経営指標は会計制度が異なるため参考値

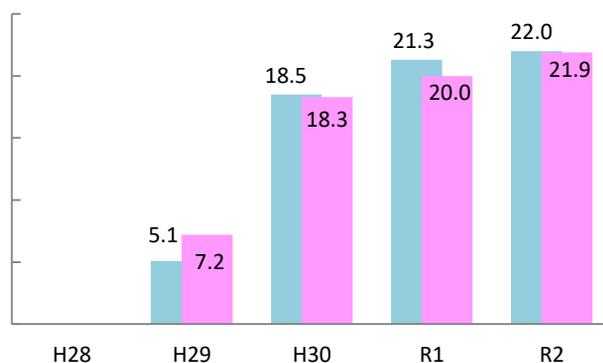


(5) 神戸アイセンター病院

◆令和2年度の主な取り組み

- ・ 硝子体注射枠・視野検査枠の増加による収益増加
- ・ 医師事務作業補助体制加算1（75対1）の取得
- ・ 診療材料や硝子体注射薬の価格交渉による費用削減
- ・ 後発医薬品への切替による費用削減

神戸アイセンター
病院



(6) 法人本部

常任理事会を毎月開催し、病院ごとの経営指標を報告し、情報の共有と課題の抽出に取り組みました。また、年度途中で適切な執行管理ができていのかどうか、四半期ごとの決算見込みや予算編成時などの機会を通じて、各病院と法人本部に対して理事長ヒアリング、本部長ヒアリングを実施し、新たな課題への対策や適切な執行管理に努めました。

2. 経営基盤の強化

(1) 収入の確保及び費用の最適化

収益については常任理事会における月次決算の報告において、新規患者数や救急の受け入れ状況、診療科別の患者数・期間別DPC等様々な指標を確認のうえ、単価の向上や収益の確保につなげました。

また、新型コロナウイルスの影響で目標達成が厳しい指標が多い中で、年度当初に策定した経営改善計画に加え、新たな改善項目に取り組み、4病院全体で588百万円の経営改善を図りました。

加えて、医薬品の購入の際、機構全体での値引き交渉を行うことで、年間で170百万円の費用を削減するとともに、診療材料統一化に向けた取り組みを行いました。

(2) 計画的な投資の実施と効果の検証

第3期中期計画の投資計画に基づき、医療機器の更新や施設設備の改良等、計画的な投資を行いました。

さらに、西市民病院の将来ビジョンを検討するにあたり、神戸市と連携して有識者会議を開催するとともに、将来ビジョン検討委員会を立ち上げ、西市民病院が市街地西部の中核病院として今後担うべき役割・機能や地域連携のあり方、再整備の方向性について検討しました。

令和元事業年度の業務実績評価における課題への対応

◆事業実績評価における課題について

- ✓ 神戸市民病院機構では、地方独立行政法人法に基づき、神戸市からの令和元事業年度の業務実績に関する全体評価について、『全体として年度計画を十分に達成し、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる』との評価を受けたところですが、本評価において、課題として認められた項目についての対応状況をご紹介します。

【神戸市からの課題】

令和元年度の法人全体の経常収支は、消費税増税の影響や経営改善の効果を上回る人件費等の増加により、3年ぶりに赤字となった。給与費や減価償却費等の増加など、経営環境が一層厳しくなることが見込まれる中で、要因分析を確実にしながら、引き続き経営改善に努めることが重要である。

一方、新型コロナウイルス感染症の蔓延が病院における医療の提供や経営、職員の働き方等に多大な影響を及ぼす中で、神戸市民病院機構の各病院は行政の要請に応じて感染症患者に適切に対応することを最優先とし、その上で救急医療、高度医療をはじめとした幅広い医療を24時間365日欠かさず市民に提供していく必要がある。

新型コロナウイルス感染症への対応に伴う収支の悪化については、市の運営費負担金により支援していくが、今後、感染症のみならず、近年被害が大型化する自然災害等の襲来も見据え、有事への対応と市民への不断の医療の提供を両立する強固な基盤を築いていくことが求められる。

◆令和2年度の取り組み状況

各病院における組織体制を含め、経営状況や医療機能の現状など、まずは実態を把握したうえで、病院経営に及ぼしている要因を分析し、一定の考えを整理した上で、その要因に対して柔軟かつ迅速に対策を講じていくことにしました。

具体的には、令和2年度末に類似病院（公立・民間など16病院）から令和元年度における経営指標データを収集し、類似病院との比較により差異を把握しました。令和3年度は差異の大きい指標を中心に類似病院へ個別ヒアリングを実施するなど要因分析を進め、病院ごとの課題を抽出し、ポストコロナを見据えた病院経営に資する経営改善策につなげていきます。

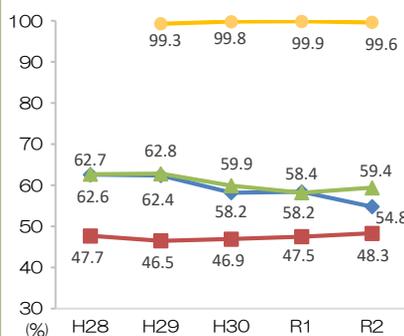
新型コロナウイルス感染症への対応については、中央市民病院は市内で唯一の『新型コロナウイルス感染症重症等特定病院』として重症患者に対応し、西市民病院や西神戸医療センターでは、軽症・中等症患者を受け入れるといった役割分担のもと、機構全体で連携をとりながら市内の新型コロナウイルス感染症に対する中核的医療機関としての役割を果たしました。新型コロナウイルス感染症への対応のため救急・手術・入院の一部を制限せざるを得ない場合もありましたが、可能な限り救急医療、高度医療をはじめとした幅広い医療を提供しました。

さらに、有事への対応と市民への不断の医療の提供を両立するため、各病院においてBCPを整備するなど、取り組みを続けています。

医療機能等指標・主要経営指標の推移

凡例：中央市民病院は ◆ 西市民病院は ■ 西神戸医療センターは ▲ 神戸アイセンター病院は ● で表示

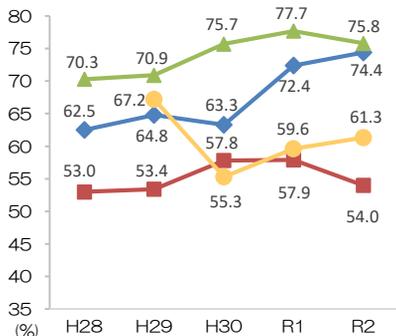
(1) クリニカルパス適用率



<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	60.0%以上	達成
西市民病院	50.0%以上	達成
西神戸医療センター	60.0%以上	達成
神戸アイセンター病院	99.0%以上	達成

(2) 紹介率

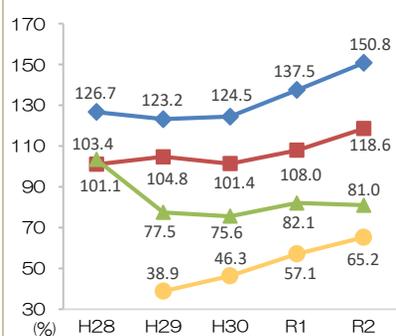


<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	72.5%以上	達成
西市民病院	55.0%以上	達成
西神戸医療センター	70.0%以上	達成

※神戸アイセンター病院は、紹介患者数により1日10人と目標を設定し、1日7.6人という結果だった。
※神戸アイセンター病院：平成30年度より算定方法を変更

(3) 逆紹介率

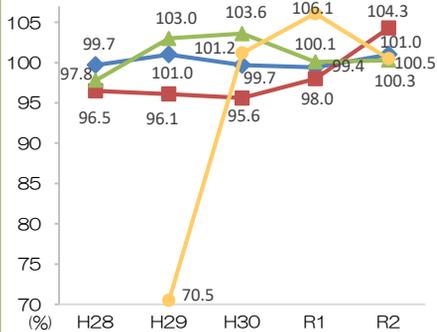


<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	130.0%以上	達成
西市民病院	100.0%以上	達成
西神戸医療センター	75.0%以上	達成

※神戸アイセンター病院は、逆紹介患者数により1日9.4人と目標を設定し、1日8.1人という結果だった。
※西神戸：平成28年10月より算定方法を変更

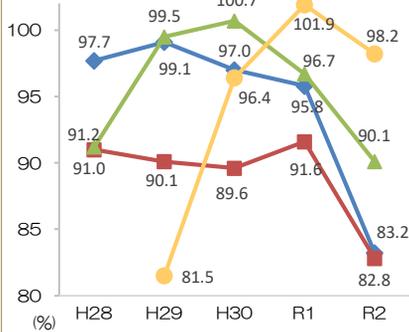
(4) 経常収支比率



<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	100.1%	達成
西市民病院	100.1%	達成
西神戸医療センター	101.5%	達成
神戸アイセンター病院	100.3%	達成

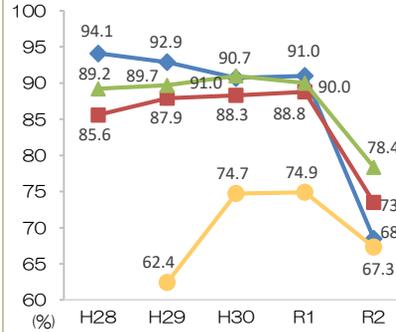
(5) 医業収支比率 ※運営費負担金を除く



<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	97.1%	達成
西市民病院	95.2%	達成
西神戸医療センター	99.1%	達成
神戸アイセンター病院	98.1%	達成

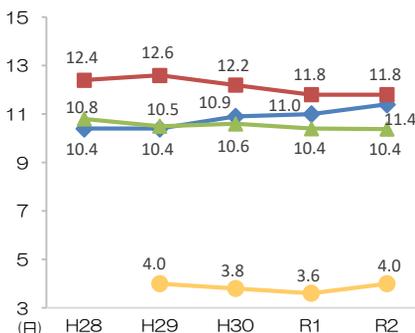
(6) 病床利用率 ※感染症病床、結核病床を除く



<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	93.0%	達成
西市民病院	90.8%	達成
西神戸医療センター	91.0%	達成
神戸アイセンター病院	78.2%	達成

(7) 平均在院日数

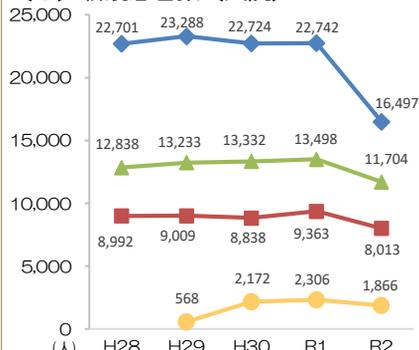


<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	10.4 以下	達成
西市民病院	12.3 以下	達成
西神戸医療センター	10.5 以下	達成
神戸アイセンター病院	3.7 以下	達成

※西：地域包括ケア病棟を含まない

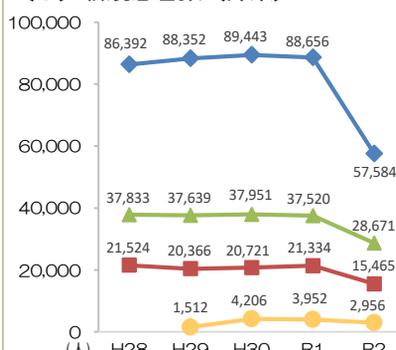
(8) 新規患者数(入院)



<令和2年度計画目標値>

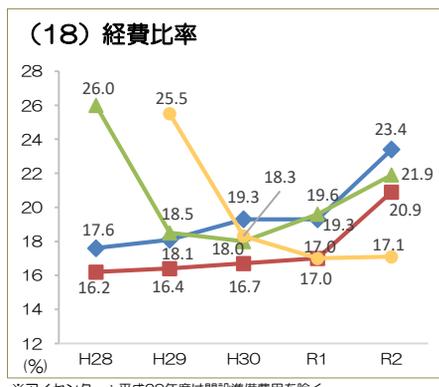
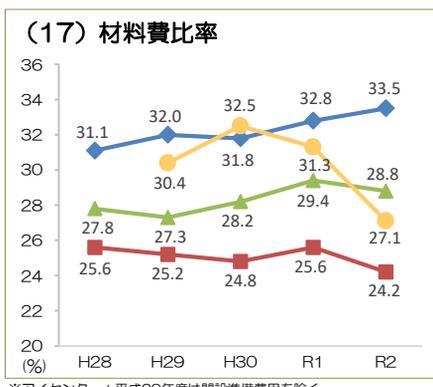
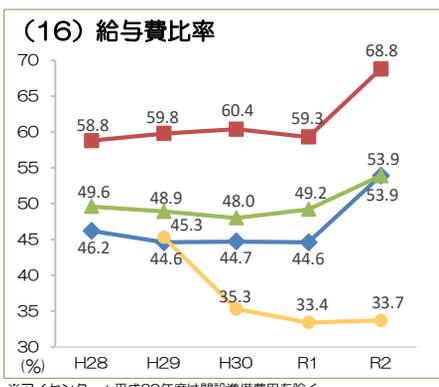
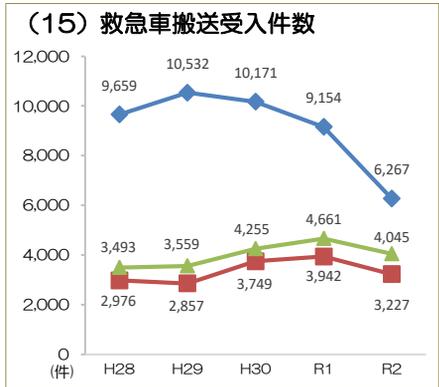
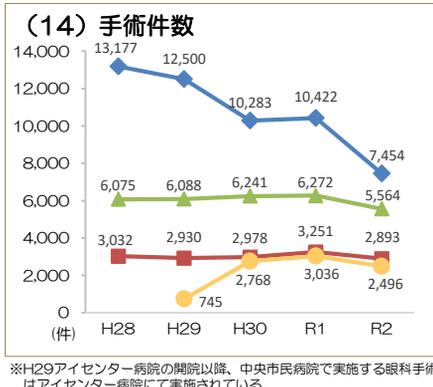
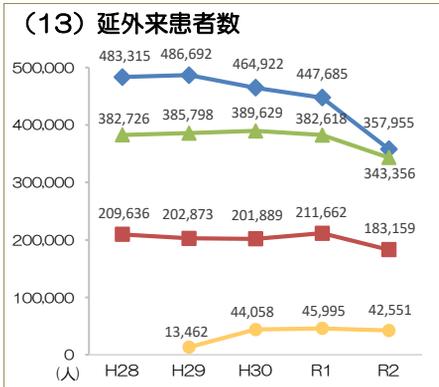
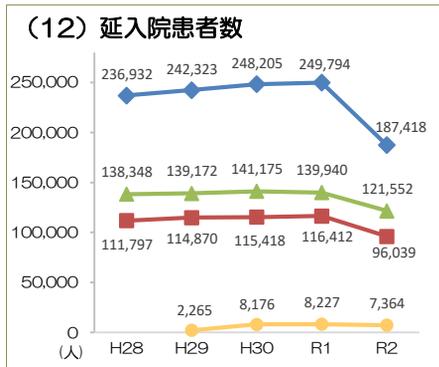
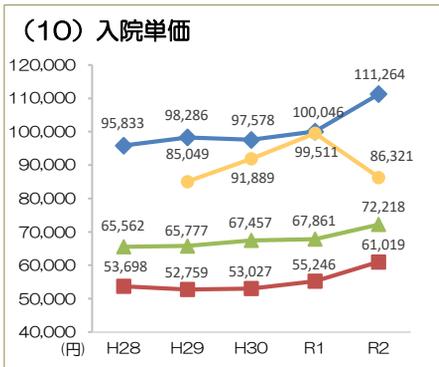
中央市民病院	23,941 以上	達成
西市民病院	9,651 以上	達成
西神戸医療センター	13,326 以上	達成
神戸アイセンター病院	2,300 以上	達成

(9) 新規患者数(外来)

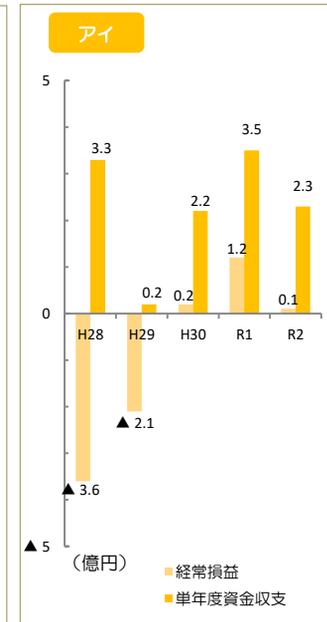
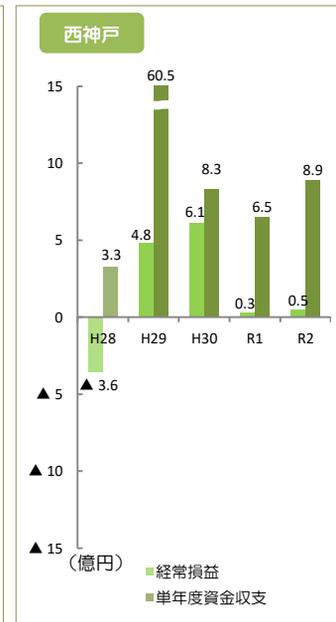
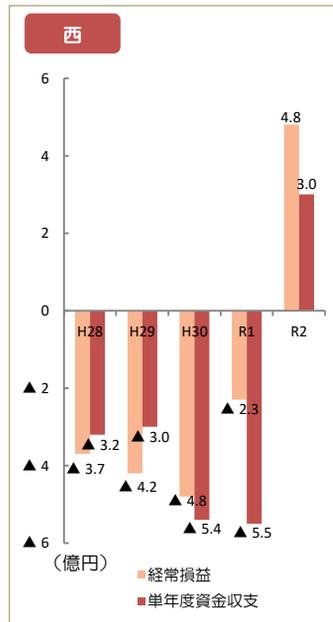
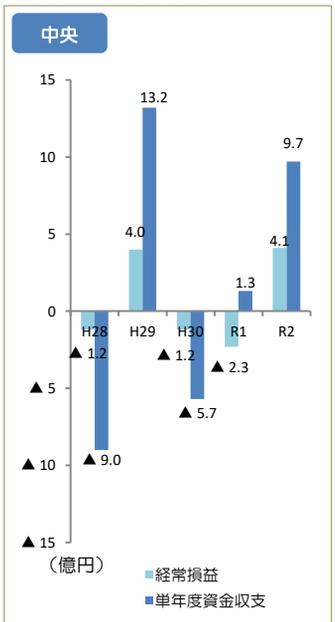


<令和2年度計画目標値>

中央市民病院	91,312 以上	達成
西市民病院	22,003 以上	達成
西神戸医療センター	37,396 以上	達成
神戸アイセンター病院	4,120 以上	達成



経常損益・単年度資金収支



※平成28年度の西神戸の主要経営指標は、会計制度が異なるため参考値